

治療した部位と治療方法

1 問診診察結果 (のたうち回る猫)

尻尾が折れているだけ。他は正常である。

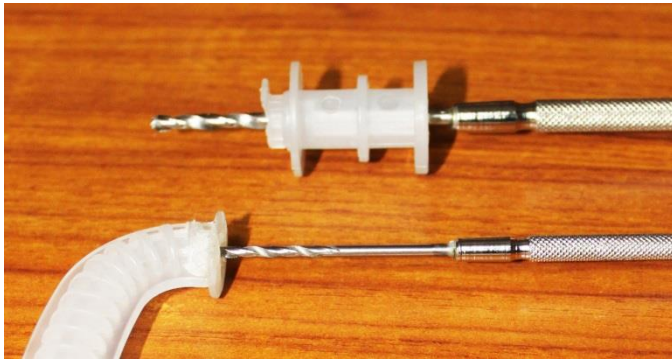


図-1 尻尾の折れた状態



図-2 尻尾の折れた猫

2 治療の方法

(1) 図-1 の上の部品は、折れた尻尾の本体に接続される箇所である。

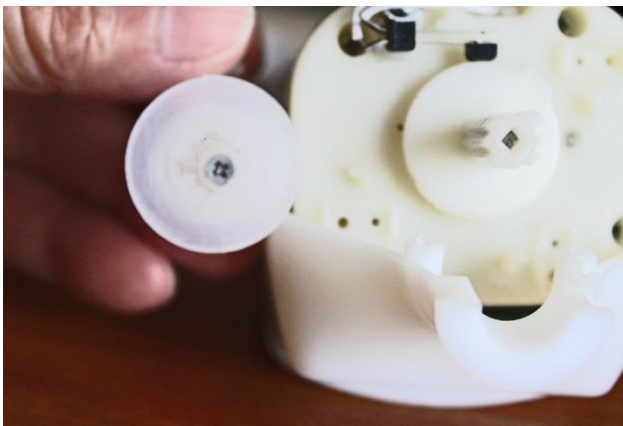


図-3 左の円形は図-1 の上の部品

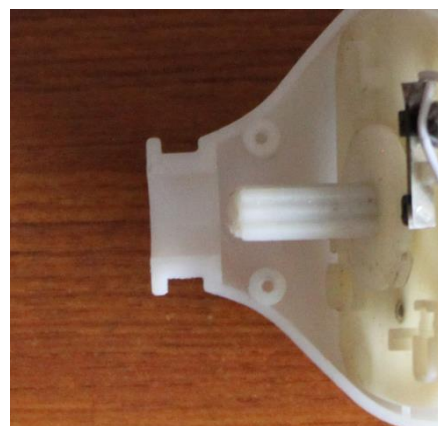


図-4 駆動本体側

(2) 図-3 の通り折れた方には直径 5 mm、深さは約 2 cm の穴があいている。その穴には歯車のように切込みがある。図-4 は本体側の駆動軸で、長さ約 2 cm で、同じく歯車のように突起となっている。

図-3 の左円の穴は、貫通はしていない。そこへ図-1 の上のように 3 mm のドリルで穴を貫通させた。

(3) 次に長い尻尾の方へも、図-1 のように並行(一直線)になるように、直径 2 mm の穴を 5 mm の深さに開けた。

(4) 折れた箇所の両端に、ボンド(セメダイン C 3000 ゴールド)を塗り、しっかり合わせてネジで

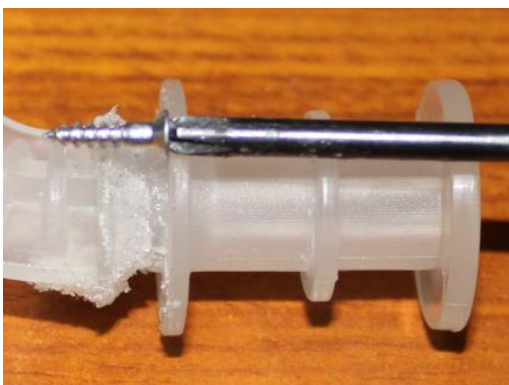


図-5 ボンド接着後ネジで固定



図-6 プラスティック粉とボンド

十分に固定した。

次に折れた箇所を2分の1ほどが、砕けた状態になっていたため、プラスチックを金切り鋸で挽き粉を作り、図-6のようにしてボンドで練って砕けて弱くなっている箇所を補強した。

(5) 図-7 中心の穴の奥には、強力に接着するためにねじ込んだネジの頭が見える。



図-7 駆動軸の入る穴の奥

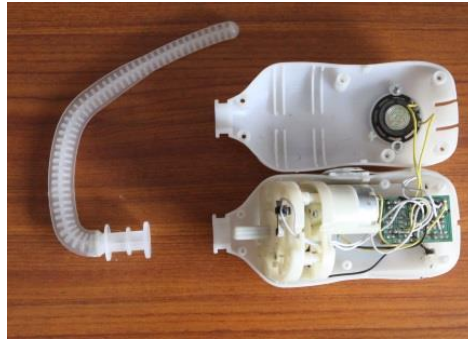


図-8 駆動本体部



図-9 組立て完了

(6) 図-8 は48時間ほど乾燥させ復元した尻尾の部分と本体の内部。スピーカーの笑い声が楽しい。

(7) 図-9 は組立て完了した駆動部本体。これが猫の体内に入る。

(8) 図-10 は依頼者さんに点検確認して頂くまで仕上げは待ちます。確認後糸を绞りながらくります。



図-10 依頼者さん点検のため・・・



・図-11 上下



(9) 図-11 上下は完成の状態です。尻尾が完治して喜ぶネコちゃんです。ワッハッハッハッハッと笑って右や左に転げ回る楽しいネコちゃんです。

3 ドクターからのアドバイス

- 同じところからは、絶対に折れないと思います。
- 尻尾に近い方を握って(持って)スイッチを入れると、尻尾が急に回って、握っている腕に尻尾があたり、尻尾とモーターの間に無理が生じて、折れる可能性が高いと思います。頭に近い方をもってから、スイッチを入れるようにすると良いと思います。こどもさんに教えてあげてください。

お渡しした日 : 平成28年5月28日

担当ドクター : 谷 春 雄